

地元の4高校 特色比べ 商業科と普通科の違い

神港橋高・兵庫商業高・神港高 ■ 兵庫高

今 回の青少年記者クラブは神港橋高校、兵庫高校により結成された。比較を始めた理由は両校特色のある学科をもつていたからだ。また、神港橋高校は2016年に兵庫商業高校、神港高校の2校が併合した新設校である。3校が併合した現在の校内の状態はどうか、生活がどうなっているのかを調べたいと思ったからだ。さらに商業科と普通科の違いを調べるため自由な校風が人気の兵庫高校と比較することにしよう。

①2016年に生まれた名前と学科

早速だが、新設校である神港橋高校の名前はどのようにして決められたのか。神港橋高校山下哲朗校長はこのように語ってくれた。「名前は公募をした中から段階的に絞ってきめました。常緑の橋は発展という意味があるといわれておりこれからの学校が発展してほしいというところから名前を橋にしました」。生徒は多くの人の期待を

背負い商業科で学んでいく。

兵庫高校も2016年から創造科学科というクラスが生まれた。このクラスは文部科学省からスーパーグローバルハイスクール指定を受けて学んでいる。スーパーグローバルハイスクールとは高校で海外でも活躍できるように人材を育成するプロジェクトである。

これからは神港橋高校、併合された兵庫商業高校、神港高校、特色ある学科を有する兵庫高校の4校を比較していく。

②橋「混ざり合う校風」兵庫「自由な校風」

まずは大きな違いとして校風が挙げられる。校風について神港橋高校山下哲朗校長は「3校が一緒に生活をしながらも大きなトラブルもなく神港10年、兵庫商業90年それぞれのいろいろな校風がある中、一つにまとまっていて美しいと思う。両校の良い部分を受け継ぎながら今の新しい学校をつくっていくように思います」と答えてくれた。

それに対して兵庫高校生徒会1年佐藤紅音さんは「確かに校



神港橋高の校舎と山下哲朗校長



兵庫高の校舎と記者の質問に答える富田哲浩校長(左)

則もなく自由だと思えます。ですが、何をしてもいいというわけではなく生徒自らやっていたこと、悪いことに線を引けるという自由があると思えます。また、自由だから生徒が主体になって行事もやるので先生との信頼関係が固いところも校風だと思えます」と答えてくれた。

③変わりつつある商業科と大人を巻き込む創造科学科

次に、各校の持つ特色ある学科について「商業科は卒業後の進路が就職という形だけではなくなってきたりしています。学年の半分が進学しており、検定を使って大学に進学しています。最近では違う分野の進路に行く人もいます。商業科は普通科には取れない資格が取れるのが魅力です。橋のみの商業科は従来にない学科になると思います」と兵庫商業高校の先生、「商業科では主に商業がメインとなっていています。普通科のように通常の授業に追加して商業の勉強をしているのではないです」と神港橋高校の先生がそれぞれ語った。

④達成感の神港橋 家族的な兵庫

続いて、各校の良いところについて聞いてみた。「橋では朝学や補習をするので塾に行かなくてもいいです。新設校なのでどれだけ実績を上げることができたら、達成感の一つ一つ味わえるところが魅力です」と神港橋高校の先生が語ってくれた。

兵庫高校では「先生が生徒に口を挟まない。先生が生徒の成長を待ってくれる。辛抱強く生徒の真の成長を待っている。また、兵庫高校は非常に家族的で先輩も温かいし先生も卒業生も

面倒見がよい。こういう見えな良さをわかってほしい」と富田哲浩校長が語ってくれた。神港橋高校では一つ一つ実績を積み上げる達成感が、兵庫高校ではアットホームな空気が良いところとして挙げられた。

⑤校長先生の思う生徒の未来

次に各校の生徒に期待していることを伺った。「人の意見を大切に自分

の決めたことを言える豊かな心と決断力を身に付けてほしい。そこで我が校で行っているモラルジレンマ(二者択一の状況でどちらもデメリットを持つていて選択に苦しむ状態の時どうするかを考える道徳の授業)を通じて、特に自分ならばどうするかを考える道徳心などを、教え込まれるのではなく自分から学んでいくようになってほしいです」と神港橋高校山下哲朗校長は語ってくれた。

⑦各校代表の選ぶ校内おすすすめメニュー

次に、多くの生徒が利用する食堂について聞いてみると各校の生徒から様々な答えを聞くことができた。「味付きから揚げ」との付きポテトです」と答えてくれたのは神港高校2年生の生徒会長。兵庫商業高校2年生生徒会長は「僕的にカラアゲカレーとシューアイスです」、神港橋高校1年生生徒会長はカツカレー、兵庫高校生徒会1年の佐藤紅音さんは30円ポテトと答えてくれた。4校の間ではから揚げやカレー、ポテトといったメニューが人気ようだ。

このようにそれぞれに特徴のある4校。文字だけでは伝わらない学校ならではの熱気や生徒の雰囲気。ぜひ生の学校の雰囲気を味わってほしいと思う。それぞれの良さがより見えてくるだろう。



▲神港橋 これがいちオシ 兵庫▼



記事・写真 山下 樹音 鳴美 天斗 堀 凌也

編集後記



書くことになりました。新聞という、世間に広まる媒体を初めて書く側に回り、多くのことを学ばせていただきました。まず、取材をするには話さずただでなく、素早くメモをとり構図を考えて写真を撮るなど一度にたくさんこのこと考えなければなりません

■宮田 恵@神港高校 今回の活動には初めて参加させていただきました。最初は分からない事も多かったのですが、記者クラブのみんなと協力できたので楽しかったです。取材をするときは相手の方に失礼のないように新聞を読む人は何が知りたいかなどを考えて行きました。新しい兵庫区についてさらに知ることもでき、とても貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。■進藤愛華@神港橋高校 今回、初めて記者クラブに参加し新聞記事作成をしました。どんなことをするのか、ものすごく不安でした。ですが、いろいろな方からお話を聞くことができたし、たくさんの初めての体験をすることができました。今回学んだことを、これからの生活に活かしていけたらと思います。■山下樹音@神港橋高校 今回、この

基本情報から新しい情報までを網羅して書くこと、そして私的な考えを入れずに書くことに苦労しました。この経験を通して新聞記者の大変さはもちろん、物事を客観的かつ他面的に見る力などの多くの力がついたように感じます。この経験をこれからの活動に活かしたいと考えています。■鳴美天斗@兵庫高校 今回の記事制作を通して自分の知らないことと多く出会えたと思います。虫歯のこと、包みジサのこと、近くに学校のことが兵庫区にはまだ知らないことがあったのだなと感じました。また、取材を通してしっかりと物事の本質を捉える事の大切さや取材した方の伝えたいことを伝える事の難しさを学びました。自分とは違う価値観を持った人と協力してひとつのものを作り上げたという経験をこれからの人生の糧にした

と思います。■堀 凌也@兵庫高校 取材先の方々とお話をさせていただいたことにより、この難しさや楽しさを知ることができました。今までは新聞を読んだことばかりで、実際に取材したことがありませんでした。取材先の方々とお話をさせていただいたことにより、この難しさや楽しさを知ることができました。今までは新聞を読んだことばかりで、実際に取材したことがありませんでした。取材先の方々とお話をさせていただいたことにより、この難しさや楽しさを知ることができました。今までは新聞を読んだことばかりで、実際に取材したことがありませんでした。